

ICT ニュース 2022/11 月号

2022/11/15 発行 ICT/感染管理委員会

新型コロナウイルスは感染力の強い新たな変異ウイルスが出るたびに、感染拡大の波を繰り返してきました。そして今、また、オミクロン株の「BQ.1」「BQ.1.1」や「XBB」と呼ばれる変異ウイルスが、主流である「BA.5」と入れ代わるように増え始めています。新たな変異ウイルスの重症化リスクは？ワクチンの効果はある？
 専門家は、①体内の抗体レベルを安定的に上げるため、重症化を防ぐ②感染後遺症の予防効果が期待できるとワクチン接種を推奨しています。



アメリカ 変異ウイルスの状況

NHK

その他 6.2% (10月23日～10月29日)

BF.7 7.5%

BA.4.6 9.6%

BQ.1.1 13.1%

BQ.1 14%

BA.5
49.6%

※ CDC まとめ

オミクロン株

NHK

新たな変異ウイルスの特徴 (BA.5 との比較)

	BQ.1	BQ.1.1	XBB
感染力	↑か 免疫逃避か		↑か 免疫逃避か
重症度	「変わらず」か		「変わらず」か
再感染のリスク	不明		不明 オミクロン株以前の感染者は再感染も
ワクチン効果	感 ↓か 重 「変わらず」か		不明 中和抗体の効果は低下か

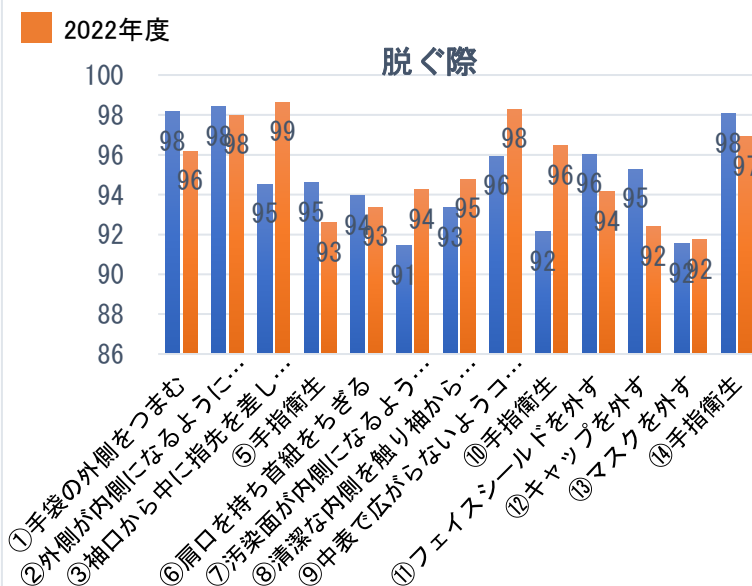
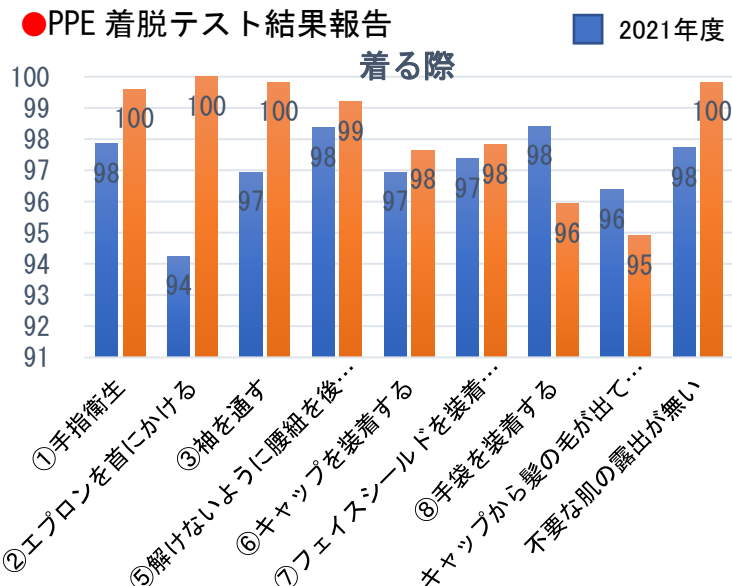
感: 感染予防効果 重: 重症化予防効果

WHO の資料などから作成

オミクロン株の「BQ.1」「BQ.1.1」は、アメリカやイギリスでは 8 月以降報告が多くなってきています。これまでのオミクロン株と比べて、感染者に占める割合が増える傾向にあり、免疫から逃れる能力が高い可能性がある一方、実際に感染した場合の重症化リスクが高まったり、免疫逃避が起きたことを示すデータはないとしています。

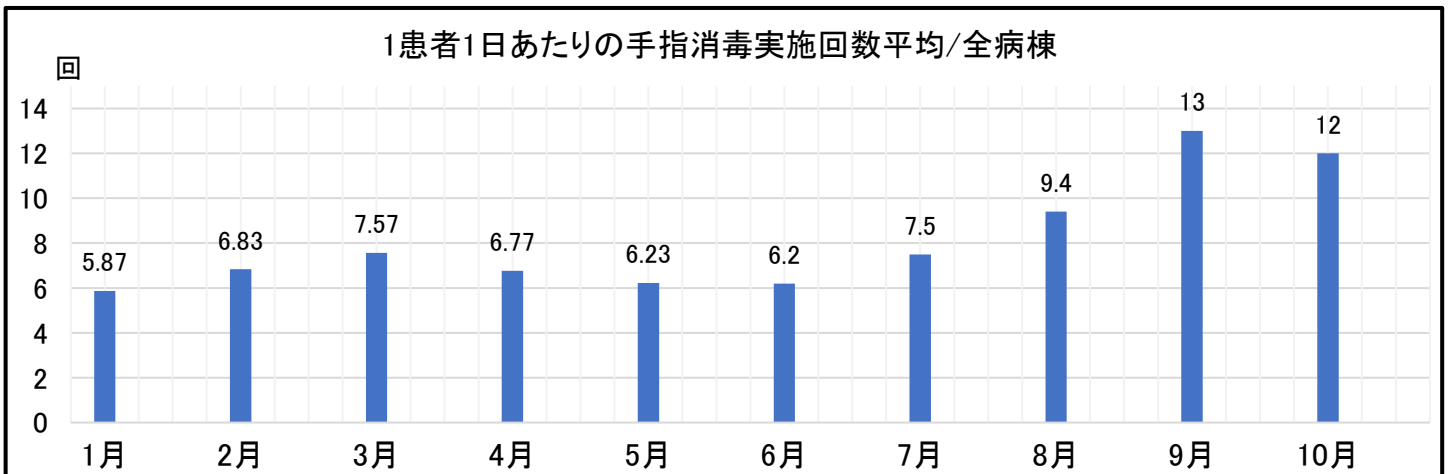
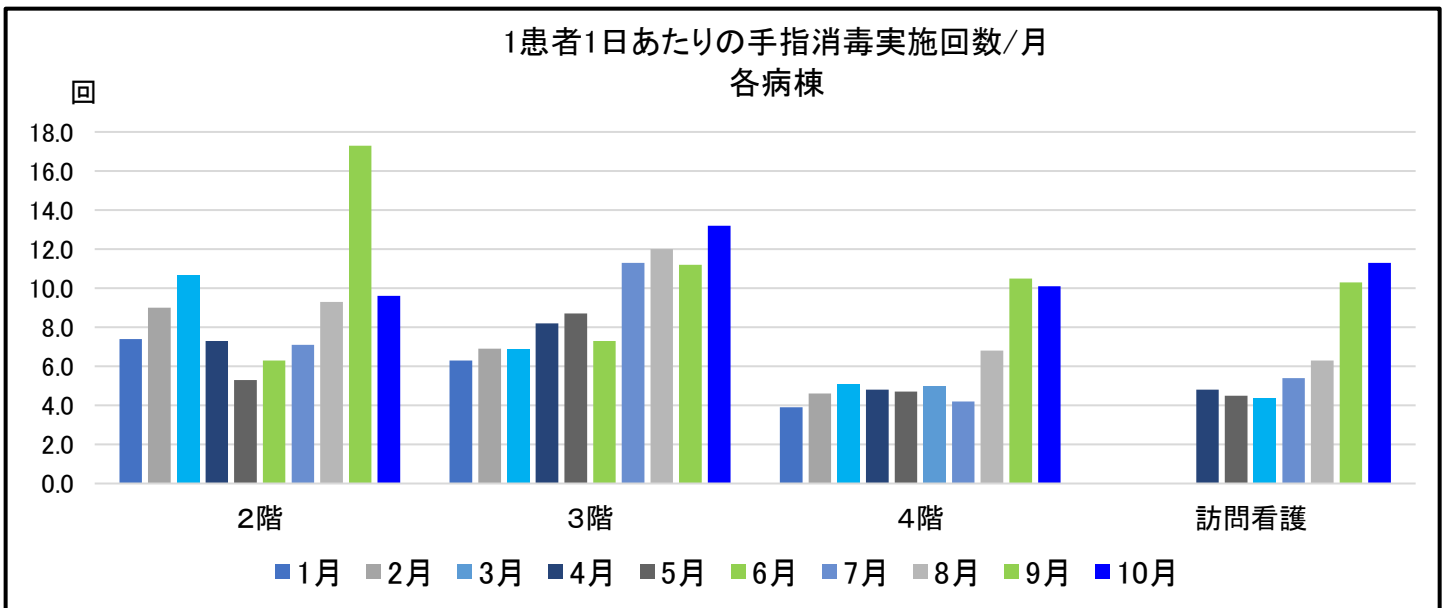
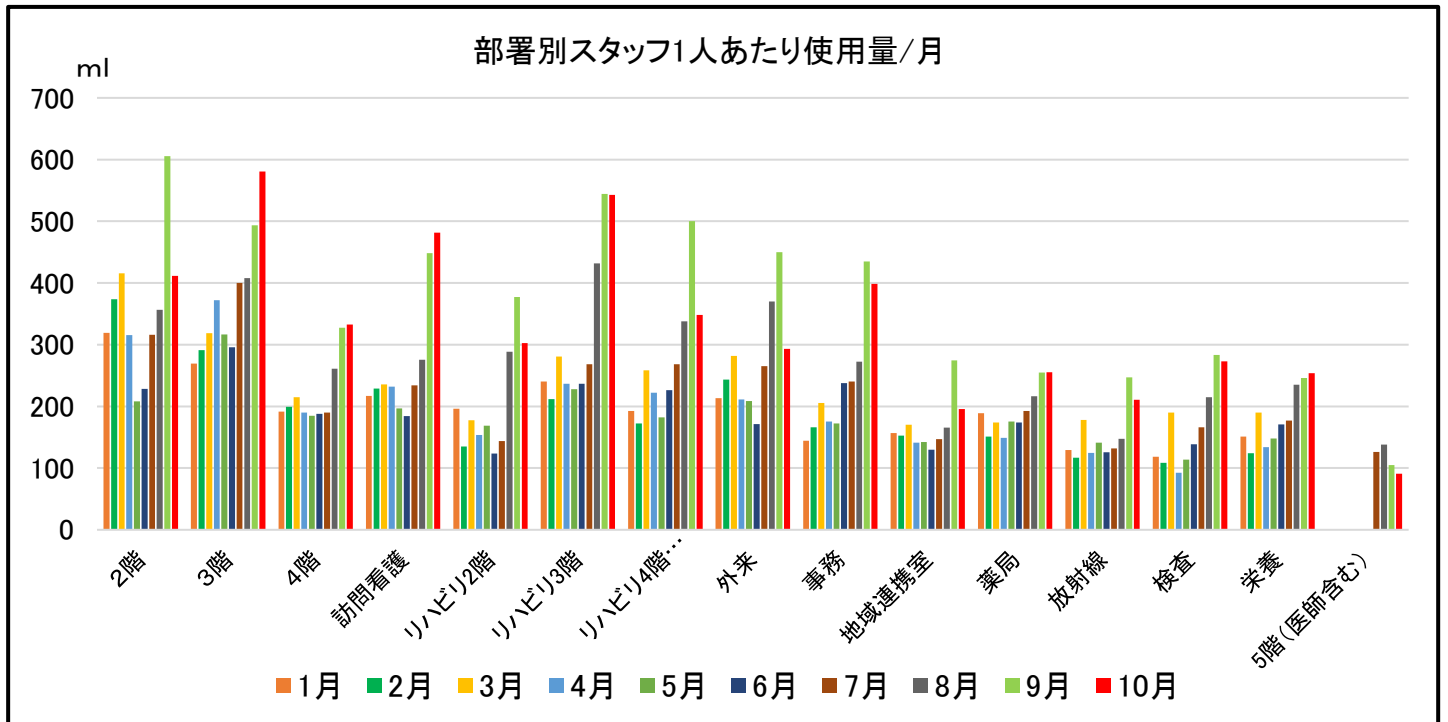
シンガポールやインドなどで増えている「XBB」は、「BA.2」から派生した変異ウイルス（「BJ.1」）と「BA.2.75」から派生した変異ウイルス（「BM.1.1.1」）が組み合わさった「組み換え体」と呼ばれるタイプのウイルスです。WHOによりますと、10月下旬の段階で 35 か国から報告されています。「XBB」について、感染力の高さが指摘されているものの、これまでのオミクロン株に比べて免疫から逃れる能力や重症化率が高いとは言えないとしています。

●PPE 着脱テスト結果報告



★PPEの着脱方法を理解できてきたようですが、手指衛生のタイミングをもう一度確認しましょう

2022年 アルコール手指消毒剤使用量報告



★使用量が減少した部署が増え、実施回数とも減少しました。引き続き対策をお願いします